

2018年4月4日

株式会社新生銀行

「新生ハッカソン」の開催について

当行では、データサイエンスに興味のある大学生、大学院生を対象に、オープンイノベーションやビジネスデータを用いた実践的な分析機会の提供のため、データ分析コンテスト、「新生ハッカソン」※を平成30年3月19日(月)から3月30日(金)の9日間実施し、成果を発表し、表彰を行う発表会を最終日の3月30日(金)に開催いたしました。

今回は、東京大学、東京工業大学などから11名の大学院生、大学生が参加し、新生銀行グループが保有する個人向けカードローンの実際のデータを用いて、ディープラーニングやランダムフォレストなどのアルゴリズムを使って、カードローン商品に申し込んだお客さまの1年後の貸倒確率を予測するモデルを開発し、モデルの精度やアイデアの新規性・発展性を競いました。

当日は11名の学生がそれぞれ約6分程度のプレゼンを行い、開発したモデルのフレームとアピールポイント、モデルを活用した分析結果について、原隆日経 Fintech 編集長、中村仁株式会社お金のデザイン代表取締役社長、深谷直紀セカンドサイト株式会社取締役兼 CTO、平沢晃当行常務執行役員、鳥越宏行新生フィナンシャル株式会社代表取締役社長の5名の審査員に対して説明を行いました。

最も判別力が高かったモデルを開発した学生に付与する最優秀賞には、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の藩秋実さんが、優秀賞には、東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻修士の成田穂さんが選ばれました。表彰の詳細などは以下をご参照ください。

参加した学生からは、「社員の方と共に作戦を立てて、分析を重ねるのが楽しく、大きく成長できた」、「実データを分析できる貴重な経験になった」との声が寄せられました。また、審査員を務めた鳥越は参加した学生に対して、「学生のみなさんがデータ分析の際に着目した分析軸の視点などはとても新鮮に感じた。将来、仕事をしていく上でも、データの先にはお客さまがいるということを常に念頭において取り組んでほしい」と述べました。

このイベントは、昨年は当行グループ会社の新生フィナンシャル株式会社が主体となって開催いたしましたが、今回はグループの活動として拡大いたしました。当行グループでは、「革新的金融サービスを提供する金融イノベーター」を中長期ビジョンに掲げ、グループを挙げて最先端技術のビジネスへの活用に取り組んでいます。新生ハッカソンはその一環として開催したもので、当行では、今後も継続して実施してまいります。

【新生ハッカソン入賞者】

最 優 秀 賞	藩秋実(筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 学部3年)
優 秀 賞	成田穂(東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻 修士1年)
日 経 F i n T e c h 賞	根岸洸平(東京理科大学大学院理工学研究科応用生物科学専攻 修士1年)
お 金 の デ ザ イ ン 賞	森伊吹(東京理科大学理工学部物理学科 学部2年)

※「ハッカソン(Hackathon)」とは、「ハック(Hack)」と「マラソン(Marathon)」を掛け合わせた造語で、一般的には、プログラマーやデザイナーなどからなる複数のチームが、与えられたテーマに対し、所定の期間集中的に作業を行い、その成果を競い合うイベントを指します。



新生ハッカソン参加学生および審査員のみなさん

以上